

令和元年度 第1回久留米市立図書館協議会 会議録

- 1 日 時 令和元年10月4日(金) 午前10時15分～11時30分
- 2 会 場 久留米市立中央図書館3階会議室
- 3 出席者 権藤会長、遠山副会長、梅野委員、檜橋委員、鳥越委員、稲益委員、
別府委員、保坂委員、渡辺委員、馬渡委員、大櫛委員
(欠席: 藤田委員、佐野委員、内田委員、永利委員、松井委員、佐藤委員)
- 4 事務局 八田館長、諸富主幹、臼井主幹、中村補佐、甲斐田補佐、福島主査、
淵上田主丸図書館長、野上北野図書館長、池松城島図書館長、原三瀨図書
館長
- 5 議 事
 - (1) 辞令交付、会議成立報告、委員・事務局紹介、会長選出(権藤会長選出)
 - (2) 平成30年度久留米市立図書館実績報告・令和元年度久留米市立図書館事業計画
等・久留米市子どもの読書活動推進計画・その他(先進地視察について)※ 配付資料に基づき、事務局から説明

～ 質 疑 応 答 ～

○平成30年度久留米市立図書館実績報告について

梅野委員: 実績報告書を見ると、北野図書館は他の地域の図書館に比べ、貸出者数・貸出冊数が多いにもかかわらず、同じ予算・同じ職員数で足並みをそろえているが、バランス的にみると職員の数を増やす必要はないのか?

八田館長: 確かに貸出者数・貸出冊数を見ると他の館の2倍位あり、北野に多くの職員を配置することも考えられる地域館には職員以外にパートも配置しているが、パートの数は北野が一番多い。数には反映していないが、城島・田主丸・三瀨の各館それぞれ地域性を活かした特色ある取り組みも行っている。また、六ツ門館は今年の4月から月曜日に開館したこともあり、一人当たりの貸出数も最も多く職員の重点的配置も考えている。

保坂委員: 実績報告の2ページを見ると蔵書数は80万冊あるが予算的には少しずつ減っていることが表で分かる。地域館も同様に減っている。今後、予算がどうなっていくのか。これでいいと思っているのか。それとも何か課題を持っているのか?

八田館長: 委員が言われるとおり、毎年減っている。人口が同規模の図書館と比べてもやや少ない。予算も同じ。北野図書館を整備した時の図書購入費の予算6000万円か

ら比べると、現在は約半分近くにまで減っている。毎年予算が減らせられるので、他の予算を削って書籍購入を増やす努力はしている。また、雑誌スポンサー制度で合計 20 万円ほどの図書を企業から提供してもらっている。

稲益委員：資料 2 の図書館利用困難者サービスとして、図書館を利用しにくい子供への支援として除籍本を配布しているとなっているが具体的にはどういう事をしているのか？

中村補佐：共働き家庭が増え、子どもを図書館に連れていくことができない。移動図書館で地域に訪問し、学童保育所全てに団体貸出を行っている。

○子どもの読書推進計画について

遠山委員：アンケートの文中に電子書籍という記載があるが、具体的にはどういうメディアを想定しているのか？専用のリーダーもあれば、スマホ、アイパッドもある。回答者がイメージしたものそのものと考えてよいのか？

臼井主幹：特に限定はしていない。文中の質問の中でも「スマホやインターネットを使うか」という問いにしている。回答者が電子書籍と思ったものが対象と考えてよい。

梅野委員：高校生の不読率が高くなるのはどこも一緒。八女市は本を読む機会が魅力的なメディアに入ってしまう。本に触れる機会を奪っているのではなく、こちらが何かを仕掛ける必要がある。何かを仕掛けないと高校生の不読率は改善しない気がする。

八田館長：国の第 4 次計画でも、ブックトーク、アニメシオン、など取り組んでいるが、取り組まない学生をどうするかに頭を悩ましている。
ブックトークやアニメシオン、ビブリオバトルは行っているが、もっとしかけが必要かと考えている。学校との連携を強めて既存のブックトークやビブリオバトルを地道に行っていく。
久留米市だけでなく、県や北筑後事務所とも協力して行っていきたい。

稲益委員：小学生で 1 日 3 時間以上スマホを見ているという
そんなにスマホを持っているのか？
私も学校に本の読み聞かせに行っており、以前は保育園に努めていた経験から言うと子供たちは読み聞かせをすると目の色を輝かせて聞き入っている。

以前この会議で話した私の孫も 2 年前はライトノベルばかり読んでいたが、高 1 になった現在では歴史書など高度なものを読むようになった。家庭でも本を読んであげることが必要。

別府委員：高校生になって本を読まないのではなく、その子たちは小さいころから本を読んでいないのだ。小さい時に家でお母さんが子供たちに本を読んで聞かせる機会がなかったのではないか。

以前、学校で朝読がない頃から読み聞かせに行っていた。その頃も子どもに 1 時間ではなくお母さんたちへの読み聞かせに 1 時間くださいと言っていた。

子どもたちは

子どもが話を聞いている姿勢をお母さんにも聞いてもらう。

その時、お話を聞いて面白かったではなく、それを繰り返していくことが大事。

大人が楽しむおはなし会をやるようになった。

去年行ったが大盛況だった。今年はやらないつもりだったが、今月の 11 日に 3 回目をやる。大人も感動して子や孫に話を聞かせるのが大事。

大人も子どもと同じ本を読む。家族の中でも同じことを話す事が大切である。

稲益委員：学校側に聞きたいがスマホを 1 日に 3 時間もする子がいることについては、どう対応しているのか？

檜橋委員：学校もアンケートをとっている。小さい子を静かにさせるために、また、自分の時間を作る為に、スマホの動画を見せたりしている。

親の意識を変える必要がある

読み聞かせは親としても手がかかる。楽をしようと子守の代わりにスマホを与えている。家族の会話も少なくなっている。

学校での読み聞かせに参加しない方は、学校内では本を読み聞かせているが、家に帰った子どもは、スマホを持って運動場で遊んでいる。

スマホが本離れを加速している。また、ユーチューブでアニメを見たりもできる。

委員長：読書推進計画は 11 月には完成予定なので、またこの協議会で審議しましょう

○その他 先進地視察について事務局より説明